

令和5年度第5回宮城県地域医療構想調整会議（仙南区域）意見概要

宮城県保健福祉部医療政策課

【報告事項（1）紹介受診重点医療機関の選定について（令和5年度外来機能報告分）】

No.	委員（敬称略）	所属	意見・質問の別	御意見・御質問	回答
8	宮崎 修吉	みやぎ県南中核病院 院長	意見	紹介受診重点医療機関を継続することに同意します。	—

【報告事項（2）第8次宮城県地域医療計画の策定について】

No.	委員（敬称略）	所属	意見・質問の別	御意見・御質問	回答
4	高山 敦	角田市医師会 会長	意見	医師・看護師不足に対する、県の積極的支援を希望します。	医師及び看護師の確保については、今後、地域医療を維持するための重要な課題であると認識しており、県として、地域の実態を踏まえ、引き続き人材の確保・定着に向けた取組を推進してまいります。
8	宮崎 修吉	みやぎ県南中核病院 院長	意見	異議はありませんが、当院は令和6年度より地域がん診療連携拠点病院に昇格することが決まっています。	御指摘を踏まえ、【図表6-1-7】について、「地域がん診療病院」を「地域がん診療連携拠点病院」とし、下段の本文について、「みやぎ県南中核病院は、令和元（2019）年に地域がん診療病院、令和6年（2024）年4月1日からは地域がん診療連携拠点病院に指定され、圏域内の中核を担っています。」に修正します。
12	伊妻 壮晃	蔵王町国民健康保険 蔵王病院 院長	意見	仙南地域では、急性期病床が県南中核病院に集中しており、重症患者を中核病院で対応してもらうためにも、より一層の連携強化を検討して、中核病院での急性期治療を終えた患者さんを速やかに引き受ける体制をつくっていきたいと思います。	今後も地域医療構想調整会議や意見交換会等の場を活用しながら、各病院が担うべき機能分担と連携方策等について協議を進め、仙南医療圏における医療提供体制の確保を図ってまいりたいと考えております。
13	福島 浩平	大泉記念病院 院長	質問	資料2-1 p4(2)機能分担及び連携状況に「●二次救急医療は、みやぎ県南中核病院と公立刈田総合病院による病院群輪番制のほか、救急告示医療機関で対応しています。」と記載が有ります。しかし、実態は二次救急医療体制はあいまいで、中核病院も二次救急としての位置付けは不明瞭。加えて刈田病院が二次救急の当番として機能をはたしているという認識はありません。輪番制当番事業の当番表も、今回、問合せを行ったことで初めて頂く事が出来ました。つまりは事業の実態性がほとんどなく、来年度も同様の対応を続ける様です。 この状況を正しく記載するならば「二次救急医療体制は確率しておらず。今後の重要な検討課題である」ではないでしょうか？これですと不都合が生じますか？	仙南地域においては7病院を救急告示医療機関と認定しているほか、行政・医療機関が参加する仙南地域医療対策委員会において、輪番参加病院・輪番当番日等を定めており、二次救急医療体制を整備しているものと認識しております。 今後も上記会議や意見交換会等の場を活用しながら、実効性のある二次救急医療体制の整備に取り組んでまいります。

【報告事項（3）医師の働き方改革に伴う特定労務管理対象機関の指定について】

No.	委員（敬称略）	所属	意見・質問の別	御意見・御質問	回答
13	福島 浩平	大泉記念病院 院長	質問	宮城県パルで話すことではないかもしれませんが、基幹病院以外の多くの病院は「日当直」で時間外を乗り切ろうとしています。もし、日当直医が「我々は電話番程度であり、救急車は取れない」と言われたら、地域医療は崩壊します。県として具体的な方針は用意されているのでしょうか？	医療の質・安全の確保や持続可能な医療提供体制を維持していくために、医師の働き方改革は重要なものと考えています。県としては、医師確保、地域間・診療科間の偏在解消及びタスク・シフト/シェアの推進に努めてまいります。

【その他 会議全体への意見等】について

No.	委員（敬称略）	所属	意見・質問の別	御意見・御質問	回答
11	岡田 信司	国民健康保険 川崎病院 院長	意見	地域医療構想や地域包括ケアシステムの考え方は、増加する高齢者への対応に重心を置いたものかと思いますが、そこで働く若い医療職の生活の基盤等々を考えた場合、産科医療や小児科医療の充実が必要です。若い人や小児が少ない地域では採算がとれない領域であり、公的な介入が必要だと考えます。「仙南地区の課題と取り組みの方向性」には一文書かれていますが、真剣に検討すべき課題かと思えます。	小児・周産期医療体制の充実・強化については、重要な課題と認識しておりますので、本計画に基づき、各種施策に取り組んでまいります。